

議会活動の在り方検討特別委員会記録

招集（開催）年月日	令和6年10月4日（金）	
招集（開催）場 所	岩美町役場 全員協議会室	
出 席 委 員	田中克美委員長、宮本純一副委員長、升井祐子委員、森田洋子委員、寺垣智章委員、川口耕司委員、柳正敏委員（遅参）、足立義明委員、澤治樹委員（副議長）	
欠 席 委 員	吉田保雄委員、田中伸吾委員	
議 長 の 出 席	あり	
職 務 出 席 者	中島議会事務局長	
傍 聴 者	なし	
開 会	8時58分	
記 録 者	議会事務局 宮内書記	
調 査 事 項	別紙日程表のとおり	
協 議 の 経 過		
日 程	発 言 者	内 容
開会	田中克美委員長	*起立、礼 始める。田中伸吾委員と吉田委員は所用のため欠席の届けがある。 橋本議長あいさつをお願いする。
あいさつ	橋本議長	進行願う。
協議事項 (1)	田中克美委員長	協議事項に入る。 10月5日開催の町民と議会との意見交換会についてということで、とりあえず今の参加申し込みの状況を。
	中島議会事務局長	参加が5名だ。
	田中克美委員長	声をかけておられる方がいると思うので何名か増えるかもしれない。少人数ということもあるので、明日は我々の方で出席する議員全員で対応したいと思うが、それでよろしいか。
	皆	はい。
	田中克美委員長	昨日、まちづくりの会との意見交換会を行った。 明日の会もだし、今後の町民との意見交換にあたって、最初の開催となる昨日の意見交換会に出席された方が多いので、昨日の意見交換会に参加されていると今後のために考えられたことがあると思うので、この場でそれをお伺いして、参考にしていきたい。 どうだろうか。
	澤委員（副議長）	昨日配られた資料には、財源がいくら要るかということが表示されてない。やはり納税者に対しては、いくら財源が要るかということは必要ではないかと思う。
	寺垣委員	資料だが、これは議員報酬に関する小委員会の報告がベースになっていると思う。今まで長い間、様々な意見や議論があつてここに辿り着いているわけだが、これを読まれたただけの方は、そういう議論の中身とか、何でここにたどり着いたのかというのが多分分からないと思うので、意見交換会用の

		資料が作れたらなと感じた。
	足立委員	昨日の会は基本的にはどういう会だという認識か。
	田中克美委員長	主催はまちづくりの会で我々が参加して話し合いをするという会だ。明日の会は議会が主催だが。
	足立委員	もしそういう会であれば、議員皆が出ないといけなと。基本的には正副委員長と、小委員会の正副委員長、正副議長だっただろう。 初めは話を聞く会かなと思って参加させてもらっていたが、やっぱり討論になってきてるし、それならば12人の議員全員が出席していただいた方がいい場面じゃないかなと、後で思った。
	田中克美委員長	分かった。
	澤委員	前回の議員報酬に関する小委員会の報告ということで配られたものの中に原価方式の算定モデルという資料があった。これがあった方が分かりやすかったのではないかと感じた。 それからもう一点、別紙の中で「岩美町議会が果たしてきた役割」のところではいろんな事例が載せてあったが、この中に我々12人の議員では2、3人しか知らないような、かなり昔の事例が載っていた。これは本当に必要なんだろうかと。我々議員が知らないことが載ってるので、それだったら最後の方の一般質問の示されたことだけでよかったのではと感じた。
	田中克美委員長	議会改革の前から、前期のときからつけているのだが、それは議会の役割というか議会の存在意味を理解してもらう材料として提供してきた。一番大きなのはおそらく、これは実際に体験した人は今の12人の中では3人だけだが、今の岩美町を考える上では、合併問題で議会が果たした役割は大きいと実感としても私は思っている。議会不要論というのが世間一般にはあるので、今どの程度それがあるか分からないが、岩美町議会の存在の意味を理解してもらうという意味合いでつけている。我々議員全員が知ってるか知ってないかということではなくて、そういうつもりでつけた。 報酬の事を考える場合も、やっぱり議会の存在の意味というのが大前提になると思うので、ずっと続けてそれをつけている。そういう思いだ。
	澤委員（副議長）	結果論になるが、この出された文章は議員報酬に関する小委員会の中で、一応皆さんの承認を得られたと思うが、これには総務教育の方の委員も出席されていたか。
	田中克美委員長	そうだ。総務教育の正副委員長も議員報酬に関する小委員会のメンバーだ。 最終的に説明のために出した資料は順番は変えているが内容はそのままだ。説明資料については、例えば「こういうふうにした方が町民に対して説得力がある」とかというような我々内輪のことで町民には関係ない表現などもあったので、そういうのは修正した。内容は一緒だ。 元々この特別委員会に提出したものは、小委員会に提案して了解の上で出したものだ。
	澤委員（副議長）	意見交換会に出される文章についてはどうか。
	田中克美委員長	不要なところを削ったり、それから原価主義以外の方式を

		なぜ取らないのかというところは説明しなかったもので、質問が来る可能性があると思って追加した。
	澤委員（副議長）	意見交換会に出される説明資料は、議会活動の在り方検討特別委員会の正副委員長と、議員報酬に関する小委員会の正副委員長だけで決められたということだな。
	田中克美委員長	意見交換会に出される資料を決めたのは全員ではない。総務教育の委員を外したという考えではなく、特別委員会の正副、小委員会の正副という感覚で進めた。結果としてそうだったということだ。元のものは、小委員会全体で決めた。
	澤委員（副議長）	せっかく小委員会で資料をつくられていたのに、それを出すべきだった。そのことで小委員会の意義がある。分かりやすく書かれたつもりかもしれないが、逆にこういうはっきりしたカラーの分かりやすい文章が省かれて、文字ばかりの分かりにくい文章が出たんじゃないだろうかと思う。
	田中克美委員長	それは皆さんの意見を聞いていて思った。数式とかを省略して文章だけにしたことを、昨日の説明の中でも言ったが、あの時点でもつければよかったなという反省があったから発言した。 森田委員はいかがか。
	森田委員	様々なご意見をいただいたが、算定のやり方も様々あるんじゃないかと意見があった。それは今後どのようにすすめていくのか。それも検証していくのか。
	田中克美委員長	我々は小委員会で議論して、活動内容を踏まえた成果主義ではなく原価主義で行くということにしたが、様々な考え方があるが、これでいくのが一番だという決定版がこの報酬問題には無いから難しいところだ。町長は常勤で我々は非常勤、そういう根本的な違いがある中での比較ということになるとものすごく難しい。だから全国町村議長の報告も、決定的な算定式はないという前提があって、その上でどう考えるかという話だ。そこはある意味アバウトに大雑把に理解してもらおうということしかできないという、そもそもの難しさがある。松本さんや清水さんが言われたような厳密さを求められると、実はもう立ち往生だ。それは仕方がない面がある。 だから大前提として常勤と非常勤を比較するという、そもそもそこから出発しているところを納得してもらった上でどうするかということに進まないと、それしか仕方がない。
		*柳委員入室 9時13分
	足立委員	議員の12名の中でもいろんな意見があると思うが、ああいう席に出たときに、自分の持論を発言してもいいのか。いろんな人の意見も、やっぱり違う意見もあると思う。昨日は聞かせてもらっていて発言は控えたが、今後いろんな話し合いがある。一議員として議員活動としての自分個人の意見は述べたらいけないのか。議会としてまとめた意見で進むべきなのか。その辺も方向性を出してほしいと思う。そうしないと、今のままだと言ってもいい場面と言ったらいけない場面と、昨日も出てきてるのかなと思って。どうだ。
	田中克美委員長	私の考えを、...
	足立委員	私のじゃなくて委員会としての。

	田中克美委員長	委員会でそのことは特別に議論して決めてない。
	足立委員	決まってないから今聞いている。
	田中克美委員長	だから委員会としてと言われても困るので私は意見を言うしかないのだが、昨日の説明のときに言ったが、あの算定方式で計算することについては一致をしてると私は最後に言った。ただし、それをどう実行するか、施行の仕方については議員の中にも意見があるということを、そういう言い方を、...
	足立委員	個別のことを言ってるんじゃないくて、全体的な流れとして、一議員としての自分の意見を述べてもいいのか、それとも、議会として一つの方向を向いてるんなら一つの方向の意見以外は控えてくれなのか。立場立場によって違うと思うが、どうなのかということ。今までなら僕は一議員としての意見は言ってもいいと思って、断りを入れた上で言ってくるし、言おうと思ってるのだが、どうなのかと思って。
	田中克美委員長	昨日の意見交換では基本的な考え方のところまでで、施行の仕方についての議論の段階まではいかなかったの。 一発で29万円にすることについては、数人の委員から異議があるということを昨日報告はした。段階的云々ということは、その議論になったら一緒に議論することになると思う。一発で行くなんてことはここで決めてないので。
	足立委員	今後、例えば田中委員長が提案された中身から仮に方向が変わったような意見を、ここは違うと思った部分を言ってもいいのかということだ。具体的にどうなのか。
	田中克美委員長	それはいいと思う。 ただし、問題提起のところまでは一致してるという前提で昨日私は説明した。その次の、一度で29万円にすることについては駄目だ、段階的にすべきだという委員が数人おられるということは報告した。じゃあどうするのかということになったときは、当然その意見を封じるつもりはない。議員の意見としても。そこをどうするかは我々も議論をしてないし決定してないので。
	澤委員（副議長）	昨日一つ心配したのは、29万円という数字が議会の皆で話し合った最終決定だと捉えられた人がおられるのではないかとということだ。
	田中克美委員長	昨日の段階ではないと思う。
	澤委員（副議長）	29万円ということばかりが先走ってしまってるような気がして。
	田中克美委員長	少なくとも昨日の出席者はそれはないと思った。
	澤委員（副議長）	29万円というのが議会としての決定で、それに対する意見をということで捉えられた人がおられるんじゃないかと心配した。
	田中克美委員長	それは私としても念押しで言ったつもりだ。昨日出られたメンバーの顔ぶれでは、そういう誤解はないと思う。
	澤委員（副議長）	議員報酬に関する小委員会のとりあえぬの決定だということがあれば、...
	田中克美委員長	いやあれば、あの算定方式をとるということを決定して、計算式にはめるとあの数字が出るという、そこまでの話だ。

		それはもう念押しして言ったので。少なくとも昨日の参加者の ので、澤委員が今危惧されるような誤解をされる人はいない と思う。
	柳委員	僕はもともと昨日の出席メンバーに入ってなかったが、あ えて控えさせてもらったのだが、大体概要を伺う中で、もう 少し簡潔に前段の説明をされた方がいいと思う。 29万円は強く言われるべきだと思うが、それは当然目標 値として、その数値を何で設定するかという算定方式に基 づいてこうだということ、それから今までの議論の中で、議 員活動、議会活動、それから今後新しく採用される方も含め て、このぐらいは要るだろうという議論は、皆さん概ね合意 を得ているという中で、ただしその29万円については、一 発で29万に持ち上げるのか、ある程度段階でという意見が あったということを、きちんと委員長がもっと住民に分かり やすく説明されないといけないと思う。 29万円は今の議会として必要な金額で妥当だということ は皆さんにお伝えして、あくまでもこれは皆さんの意見を聞 きながら、最終的な決定はさせていただくということをもっ と分かりやすく言われた方が良く思う。 それと足立委員が言われた、統一するかしらないかという話 は、そういった席では、委員会の決定事項は一つというこ とで、ただその中にはこういう議論があつて、こういう意見 を持ってここまでたどり着いたと委員長が報告を改めてされ ばいい。議会としてはこういった形で進めさせていただき たいと思ってるということで、それ以外のことは僕は言われ ない方がいいと思う。住民からしたら、意見がまとまってな いんだということになりかねないと思う。
	田中克美委員長	具体的に29万円をどう扱うかということについては多数 決で決着してない。これはまた僕の個人的な思いだが、「こ ういう意見が数名ありました」というのは、ある意味では、 具体的にじゃあどうするんだっていう議論で意見を聞くとき の言ってみれば誘い水だというふうにも思っている。むしろ 何か意見が出しやすいとか。その場がどういう成り行き になるかというのは、確定的に想像してるわけじゃないが、 その意見交換の中で「私は町の財政を考えたらこういう段階 を踏むべきだと思う」とかいう意見を議員が言われてもいい と僕は思ってる。 それをまた町民がどう受け止めるかということで、それを 踏まえて我々が最終的にどういう諮問にするのかをまとめて いく。もうそれしかないと思ってる。その方がいいと僕は思 ってる。
	柳委員	きちっと一貫した考えで発言なされるのはいいが、たまた まちょっと違うことを言ったばかりに、話が枝の枝に入る可 能性があると僕は思う。極力個人の意見は述べない方がいい と思う。そこは委員長が整理されて、ご意見のもとにこうな ったということで、今決まっている委員会としての方向性 を持って皆さんの意見を伺いたいという形の方がいいと思う。 その場でやると、たぶんいろいろな話が出てくると思う。
	田中克美委員長	意見を聞く会であるし、意見交換会に参加された町民の方

		から「段階的にすべきだ」とか「いきなり29万円はだめだ」という声も出ないのに、我々の方から言うというのは必要がないと思っている。
	柳委員	ここにたどり着くまでの委員会の議論というのは大事で、やっぱりそれぞれの委員の発言の重さから考えると、「こういう意見があった。しかしながらこういった方向で進もうということになっている。」ということでその中身を言われた方がいい。聞かれたら答えるというのではなく。
	田中克美委員長	町民から出てこないのにこちらから取えて言うのは、ということだ。
	柳委員	ここに結論づけるまでに、プロセスとしてこういう議論もあったと。一発で上げるのか、29万円が正しいのか、でも29万円の正当性は算定根拠にあてはめるところで、しかもその29万円は今現段階での議員活動、議会活動には必要不可欠な金額だと皆さんは思っていると。ただ上げ方として、段階的な措置も考えておられる議員もあったということは報告されればいい。
	田中克美委員長	最初の説明で報告している。
	澤委員（副議長）	この29万円は、議員報酬に関する小委員会での結論だが、あくまでも議会活動の在り方検討特別委員会のためのたたき台だろう。
	田中克美委員長	それがここで承認された。
	澤委員（副議長）	議会活動の在り方検討特別委員会が開かれたのはまだ1回だけで時間が数時間しかない。もっと議会活動の在り方検討特別委員会の中で皆が自分の思いを言われて、こんな意見がありましたと意見交換会で委員長が言われるならいいが、これが小委員会から出されてからまだ数時間しか議会活動の在り方検討特別委員会が開かれてないから。
	田中克美委員長	それは回数の問題じゃないと思う。 回数の問題じゃないと思うというのは、検討に当たっての基本的な考え方を皆が了解してもらって、それに数字を当てはめて出たのが29万円だ。だから29万円について議論になるのはそれをどう扱うかという話であって、29万円という数字は単純に計算式に数字入れて出てきたもので動かしようがない。その前提の考え方は一致してるんだからそれ以上何を議論するのか。
	澤委員（副議長）	例えばどういう上げ方にするかとかということに議論が全く進んでないの。
	田中克美委員長	それは進めなかった。
	澤委員（副議長）	議論する期間が短いから、こういった意見があったと委員長の報告だけで済ますのはどうかということ。
	田中克美委員長	いやそれで済ますしかない。 それで、そのどうするかということは諮問案を考えるときに絶対に議論になる。委員の中にも段階的に上げるべきという意見が数人はあるわけだから当然それを踏まえて、それから町民に意見を聞いて、それを踏まえて諮問案をこの特別委員会で考える。そのときに絶対に議論になる。 意見交換の前の段階での議員報酬に関する小委員会は、基本的な考え方とそれに基づく数字はこうだということを提示し

		て、要するに町民に問題提起して意見を聞くと。それで意見を聞いた結果で、29万円はけしからんとなるかもしれないし、一度に上げるのはだめだとか、あるいは上げるにしても今期でなく次期の改選後にしろとか、様々な意見が出ると思う。それは具体的にどういう諮問内容にするかという話になるので、この特別委員会で議論することになる。だからそれは心配されなくていい。 何回もそのことを議論するのは先の話で、現段階では、私がこの算定式については、皆さん一致してると。ただしそれをどう実行していくかということについては、こういう意見の方が数名おられましたということを報告した。 川口委員はどうか。
	川口委員	根拠で昨日出とられた意見で何人か言っておられたが、いろんな算定の仕方もあるんじゃないかということもあったが、私はもうこれでいくということで理解させてもらった。 資料は明日の会もこれか。
	田中克美委員長	もう時間がないので明日は今日のこの資料で、あとは説明の仕方を少し変える。 実は私の昨日の受け止めは、29万円がだめだとかいう話じゃなくて、町民が納得するような説明をちゃんとしなさいよという助言だと思った。納得するような説明をもっと工夫してやれと言われたと私は思った。 それから、今後本当に納得してもらうためにはもっといろんな活動を目に見えるようにしろとか、こういう意見交換をやっていることももっと町民に知らせろとか、納得してもらうためにはそういう必要があると。あの算定方式がけしからんとか、29万円がけしからんとか言うのじゃなくて、上げることにして納得してもらうためには、もっと工夫しなさいよという助言だったと思っている。
	足立委員	我々議員を副業だという表現であの席で堂々と言われた。基本的に、その辺からやっぱり理解してもらわないといけな
	田中克美委員長	他にあるか。なければ、実は私10時から敬老会の婦人部が集まるそうで、その冒頭で意見交換の機会を設けてくださいというお願いで話をさせてもらうことになっている。 意見を聞かせてもらうのはこれでお終いにして、また他にあれば、副委員長でも私でも事務局にでも申し出てほしい。 それからもう一つ、その他ということになると思うが、婦人会と老人会の方に機会を設けてくださいという話をしたが、一つ今ネックになってくると思うのが、ねんりんピックだ。岩美では20日にあるが、特に婦人会はそれに忙殺されてるといえるか、もうそれどころじゃないという雰囲気だ。少なくとも20日は過ぎないと、とても考えられないという会長さんが何人かおられるというのが分かって、それが落ち着かないと、どうもならないなという面があったと思う。 今後のスケジュールを含めて、あらかじめ正副議長、副委員長それから小委員会の正副を含めて相談をして、我々が産業福祉常任委員会の視察から帰った後で、また皆さんとスケジュールについても相談をさせていただきたいと思っている

		のでご了解いただきたい。
	澤委員（副議長）	明日の資料はこれを出すのか。
	田中克美委員長	とりあえずもうちょっと追加して、今分かりやすいと言われた資料は入れる。財源は口頭で説明する。それから昨日思ったことで、橋本議長がこの30年上げてない云々と言ったので、ああいうことも含めて説明に加えて、単純な何か理屈の話だけじゃない、...
	澤委員（副議長）	あと二つ、時間がないので。 小委員会で出されたことはあくまでたたき台だと言うことが確認できた。
	田中克美委員長	小委員会のたたき台はここで承認した。 町民との関係ではたたき台だ。
	澤委員（副議長）	議員報酬に関する小委員会はいつまであるのか。 この間、報告を出した時点で終わったと思っておられる方がおられる。はっきりさせておかないと。
	田中克美委員長	この問題がある程度決着がつかないと相談する機関がなくなるので。
	足立委員	日程的に委員長が忙しければ副委員長もおられるから、時間を十分とりながら進めよう。
	田中克美委員長	そのことも踏まえて、22日過ぎてから相談をかける。
	宮本委員	最後に、明日は5人という事態をどうされる。改めて言わないと。5人しか参加者がいない。
	田中克美委員長	呼びかけてくださいということだ。声をかけてほしい。 明日は9時半の集合でお願いします。役場の大会議室だ。
閉会、	田中克美委員長	以上で閉会する。 *起立、礼 9時44分閉会

上記のとおり会議の次第を記録し
これを証するため、ここに署名する

議会活動の在り方検討特別委員会委員長

田中克美